

日本人中年女性の体表面積に関する研究

○富田明美* 宮本征一** 堀越哲美***

(* 椋山女学園大, **名古屋工業大, ***名古屋工業大・院)

目的 体表面積は、衣服のかたちと大きさを決定する基盤であり、また、人体と環境との熱授受を考察する上で人体側の基本尺度として不可欠な要素である。しかし、体表面積の実測は極めて煩雑なため、身長と体重による推定式が提案されてきた。本研究は、こうした推定式の中年年齢層への適合性について検討するとともに、さらに精度の高い推定式を提案することを目的とする。

方法 被験者は、年齢 53～59 歳の体型の異なる中年女性 4 名を用いた。体表面積は、非伸縮性粘着テープにより実測した。前報¹⁾の日本人青年女性の体表面積・体表区分面積比率と比較し、中年体型における体表面積の特徴をみた。また、既往研究における身長と体重による体表面積推定式により体表面積を算出した。そして、推定式による体表面積の誤差を求めた。

結果 ①被験者の平均身長と体重は、HQL における 50～59 歳中年女性の平均とほぼ等しく、中年女性の体的特徴を有していると考えられる。これらの体表面積は、 $15169 \text{ cm}^2 \pm 1502$ であり、青年女性体表面積の平均 $14443 \text{ cm}^2 \pm 657$ と比較してやや大きくなった。②解剖学的体表区分における面積比率において個体差の大きい部位は、臀部と大腿部であった。また、青年女性に比較して、胸部・大腿部が小さく、腹部・上腕部・腰部が大きくなることがわかった。③既往研究における体表面積推定式より体表面積を算出した結果、青年女性に比較して実測値との差が大きいことが明らかになった。体表面積の推定には、身長、体重のほか、体表の凹凸を表す要素が必要であると考えられる。 文献 1) 富田明美, 宮本征一, 堀越哲美: 日生氣誌, 36(1), pp.43-51, 1999